

ミイラ取りがミイラになった話

戸松 孝夫

ペンクラブで執筆のみならず表紙の装丁やカットを描く等多角的に活動しているN氏は、同じ様な在京グループX会においても、豊かな文学的・芸術的才能を生かして写真等趣味の分野でも長年腕を振るっている。しかし当X会ではコロナの仕業で昨年10月以降、皆で集まる機会がなく、活動が極めて不活発になっていた。それを見かねたN氏はX会の世話役に対し、「ペンクラブではZoom制度を採り入れ、コロナ前と変わらず、定期的に電波を通して集まり、書き、語り合っている」実情を説明し、現場を見学してみないかと声をかけた。それに基づきX会員のうち好奇心の強い5名が早手を挙げて、1月の中旬当クラブの月例会をZoom見学した。見学人を代表してTが、X会でもこのシステムを取り入れるのがよいのではないかと報告した結果、X会内部でもZoom採用に備えての研究が始まった。ところがZoomが出来ない会員の切り捨てに繋がるのではないかとの意見が出たようで、Zoom採用は具体化せず、宙に浮いたまま。これを心配したN氏はTに対して、「誰もがZoomを使えるようZoomの操作と会議運営に関する知識をしっかりと学んでX会に持ち返るように」と、再びペンクラブ見学に誘った（3月中旬）。

更に「今回は{何でも書こう会}で具体的な投稿文を皆で批評する文章勉強会だから面白い。お前も発言していいよ」として研究対象となる800字原稿20編を予めメールで送り付け、Tを抑え込んだ。当日は2次会も含め約5時間、TはクラブのZoom雰囲気ですっかり飲み込まれてしまったようで、自分でも発言すると同時に、参加者たちの発言内容が、自分にとって大変良い勉強になるとの感触を得た。更には文学的観点からのみならず技術的面でもM女史の微に入り細を穿つ個別指導の様子を観て、家庭教師をつけているが如き印象を受け、自分もこんな会に入りたいような思いに至った。ペンクラブからZoomの運営方法を学ぶ（Know-howをこっそり盗みとる）為に参加していた筈のTの心は、この辺りで無意識のうちに、ミイラになりそうな雰囲気に変化してきていた。

数日後、Tは夫婦一緒に出掛けた車の中で、突然妻から「この間i-Padで何か得意げに昔のことを喋っていたけど、何の話？ 相手はどういう人たち？」との質問を受けた。Zoom会議を妻は無断で聴いていたらしい。Tは企業OBペンクラブのこと、先日のZoom会議の目

的等を説明し、「俺もこの会に入れてもらえることになった」と言ったところ、「あなたの話は余りにも年寄りくさい、最近企業を卒業した人たちには全く興味が無いピンボケな話題ばかり。若い女の人の声も聞こえていたが、そんな元気な若者たちの会に老人がノコノコ顔を出し昔のことを書いたり喋ったりしても馬鹿にされるだけ。紹介してくれた方の面子を潰すことにもなりかねないから、入会は止めなさい」との怖いお達し。

自分の年齢を認識し、実力を心得ているTは「そうか、やっぱり止めよう」と入会の野心を素直に断念し、念の為N氏にその旨伝えたところ、メールで下記のような返信あり、Tの心は再び揺れ動いた。

『私も今年 83 歳になりますし、メンバーの多くはそれに近い年寄りです。お互いにかつて企業戦士として活躍していた頃を単に懐かしむ話だったり、少々ピントのボケた話も出てきます。そういう話を軽く受け流すのがこの会の流儀です。奥様がまじめにお考えいただき、心配されるお気持ちもわからないでもありませんが、それは全くの杞憂だと思います。』

単純なTはこれでまた元気付けられ、妻には内緒でクラブ年会費を払い込んだ。ペンクラブで学んだはずの貴重な Know-how をX会に持ち返ることを忘れて、「ミイラ」としてペンクラブで活動することになったこの話は、最後にひとつオチがつく。ミイラを仕立てたN氏は元大手メーカーの海外営業マン、一方それに見事にひっかかりミイラになったTは、ミイラ仕掛けが本業の元商社マンだったとは面白い。